

第12回 協働のまちづくり推進特別委員会

令和5年6月16日(金)

13時00分～ 時 分

第4委員会室

- 【委員】 西田委員長、上野副委員長
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
- 【議長・委員外議員】 笹田議長
- 【事務局】 小寺書記
-

議 題

- 1 協働のまちづくり推進特別委員会における中間報告について
- 2 勉強会の実施について
- 3 その他

○次回開催 月 日 () 時 分 全員協議会室

令和 5 年 6 月定例会議

協働のまちづくり推進特別委員会 中間報告

令和 5 年 7 月 3 日

本特別委員会は、「協働のまちづくりの推進について調査及び研究を行うとともに、市に対し必要な意見及び提言を行うこと」を目的に、令和 4 年 3 月 17 日に議会の議決を経て設置されたところです。委員会設置から今日までの会議の開催状況や検討状況について、中間報告をさせていただきます。

まず、令和 4 年 3 月 17 日に第 1 回の特別委員会を開催し、正副委員長の互選を行いました。

第 2 回は新しい年度となった 4 月 12 日に開催し、今後の取組方針等について協議した結果、まずは現場の意見を聴くことから始めることとし、まちづくりセンター職員の方を対象とし、8 名の委員が 2 人 1 組に分かれ、1 班が 6、7 か所を分担して 5 月中旬までを目途に意見聴取を行うこととしました。また、まちづくりコーディネーターとの意見交換も並行して準備を進めることとしました。

すぐに意見聴取に取り組めるよう、第 3 回の特別委員会は 4 月 19 日に開催し、班編成、担当センター及び意見聴取事項について協議し、決定しました。

その後、5 月 9 日から 26 日にかけて市内 26 のまちづくりセンターへ委員がそれぞれ伺い、意見聴取を行いました。

第 4 回の特別委員会は意見聴取実施後の 6 月 7 日に開催し、それぞれの会場でいただいた意見等を班別に報告し、全委員で共有しました。まちづくりセンターからは「市の考えるまちづくりの完成形が見えない、まちづくりセンターは事務局で住民がプレイヤー、取組が分かりにくくなった」などの意見があり、委員会としては「協働のまちづくりの浸透が不十分・無関心・高齢化・人口減少などの状況がある一方、子ども・若者を巻き込む取組や地域資源の発掘などで協力者は地域にいる」と考えました。また、まちづくりコーディネーターとの意見交換は令和 4 年 6 月定例会議後に実施することとしました。

そして、7 月 11 日には 5 名のまちづくりコーディネーターとの意見交換を実施しました。まちづくりコーディネーターとしてのこれ

までの活動や、取り組む中で感動したこと、課題・問題点は何かなどをテーマとし、活発に意見を交わしました。「コーディネーター同士の連携で地域のつながりの強化を図り、試行錯誤しながら意欲的に地域に飛び込んでいる。コーディネーターの権限の明確化と強化が必要」との意見があり、今後の方向性について市担当課との継続した意見交換が必要と感じました。

第5回の委員会は8月17日に開催し、5月に実施したまちづくりセンターからの意見聴取のまとめを行いました。委員間での協議の中で、地域によって地区まちづくり推進委員会の必要性が認識されていないこと、一方、センターによっては協働のまちづくりの理解不足の声を聴く取組やまちづくり組織の整理や新たな組織づくりが行われているなど前向きに進めているセンターもあると認識しました。

第6回の委員会は9月26日に開催し、7月に実施したまちづくりコーディネーターとの意見交換のまとめの協議を行いました。委員からは「コーディネーター同士の連携が強くなってきている。浜田市全体をよくしたいという頼もしさを感じた」などの意見がありました。また、今後の取組として、浜田地域のまちづくり組織との意見交換について、対象の選定等精査が必要なこともあり今回見送りましたが、市担当課職員との意見交換を先に行うこととしました。さらに、9月16日に市主催で実施された「協働推進講演会～場づくり・仕組みづくり・人づくり～」において、講師から実践例の紹介等があり、委員や委員外議員も拝聴しました。委員会として、この実践例を実際に目で見て確かめ感じ取りたいという思いから、長崎県へ行政視察を行うこととしました。

第7回の委員会は10月26日に開催し、協働のまちづくり推進計画の評価・検証及びまちづくりセンターの評価・検証の2件について執行部から報告を受けました。また、行政視察について、11月7日、8日で長崎県佐世保市及び佐賀県小城市へ伺うこととしました。

上記委員会終了後、「まちづくりセンターとまちづくりコーディネーターの役割」及び「町内会、自治会等の組織」の2つのテーマで市担当課職員との意見交換を行いました。「地域住民が主体となって地域の課題解決に取り組むこと」や「住民意識の底上げのため

に、まちづくりに関わる組織や団体などまちづくりセンターを地域の拠点を担う体制とすること」などの意見があり、担当課と委員の間で思いを共有でき、このような意見交換の場を継続的に行うこととしました。

11月7日からは行政視察に出発し、長崎県佐世保市については、9月の講演会で講師をされた長崎県立大学の石田准教授にご同行いただきながら、「相浦地区コミュニティセンター」、「させば市民活動交流プラザ」及び「万津6区」の取組を視察し、翌8日は佐賀県小城市の「リビングラボ」の取組を視察しました。この視察の報告については、令和4年12月19日の全員協議会にて、行政視察レポートとして報告したところです。

第8回の委員会は11月28日に開催し、先の行政視察を終えたところでの各委員の所感などについて委員間協議を行いました。また、これまで当委員会で実施してきた意見交換や行政視察を踏まえ、次回委員会では、各委員からのこれまでの取組のまとめや市に対して訴えたい内容の提出を受け、それを基に提言等への協議を進めることとしました。

第9回の委員会は令和5年1月13日に開催し、全委員がこれまでの取組のまとめなどを発表し、当委員会で得た知見を、市へどのように訴えていくか協議しました。その結果、提言を行うにはより一層の調査・研究が必要との結論で、6月定例会議での中間報告に向けてまとめていくこととしました。また、当委員会の考えと市の考えのすり合わせを行うため、市担当課との意見交換を行うこととしました。

第10回の委員会は3月3日に開催し、地域政策部長、地域活動支援課長及びまちづくり社会教育課長に出席を求め、「公民館からまちづくりセンターへ」、「協働のまちづくりのゴールとは」及び「地域活動を推進する人材の育成」の3つのテーマで意見交換を行いました。「目指すものは必要だが統一したゴールを設定するのは難しい。3年間の取組の評価検証をし、5年目に向けて今後の見直しをしていく」などの意見が担当課からあり、協働のまちづくりは続いていくもので、人材育成や生涯学習などについて、議会と執行部が両輪で進めていくことが重要と考えました。

第 11 回の委員会は 4 月 12 日に開催し、中間報告を行う事項について委員間で協議した後、今後の当委員会の方向性について議論しました。その結果、委員改選までのところで市へ提言を行うため、勉強会を計画することとしました。

第 12 回の委員会は 6 月 16 日に開催し、中間報告内容の最終確認を行いました。また、滋賀大学の横山教授に講師をお願いし、「地域の改革と中間支援（コミュニティ支援・協働支援）」と題し、7 月 7 日に勉強会を実施することとしました。

これまでの当委員会での取組をまとめ、浜田市における協働のまちづくりがより一層推進されるよう市に対する提言を行うべく、引き続き協議を重ねてまいります。

以上、協働のまちづくり推進特別委員会の中間報告といたします。

協働のまちづくり推進に係る勉強会

目的	市に対する提言に向け、当市での協働のまちづくり推進についての手がかりを得ること
日時	令和5年7月7日（金）午後3時から
会場	全員協議会室（Zoomによるオンライン勉強会）
出席者	協働のまちづくり推進特別委員（+議長）
講師	滋賀大学経済学部 教授 <small>よこやま こうじ</small> 横山 幸司氏
講師略歴	<p>岐阜県庁職員として、約20年間勤務したのち研究者へ転身 国や市町への派遣経験あり ⇒国、県、市、町村という地方自治のすべての層を経験</p> <ul style="list-style-type: none">●総務省自治行政局行政課総務事務官●岐阜県揖斐郡大野町総務部参事（政策調整担当）兼企画財政課長●岐阜県恵那市教育委員会社会教育課企画監兼生涯学習推進室長 企画部まちづくり推進課企画監併任●恵那市生涯学習まちづくりセンター所長 <p>2013年度から滋賀大学社会連携研究センター 准教授 2016年度から同センター教授 2019年度から滋賀大学経済学部教授 2021年度から同学部教授兼社会連携センター長</p> <p>研究者に転じた後も一般行政から教育行政まで幅広く地域の課題解決に携わり、これまでに関わった自治体や団体は、滋賀、岐阜、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、島根、岡山、広島などで、のべ310を数える（2021年11月時点）</p>
演題	地域の改革と中間支援（コミュニティ支援・協働支援）